

すべての革新は患者さんのために

CHUGAI 中外製薬

Roche A member of the Roche group

AVASTIN bevacizumab

at the Front Line CHUGAI ONCOLOGY

日本標準商品分類番号 874291

抗悪性腫瘍剤 抗VEGF^{注1)} ヒト化モノクローナル抗体
生物由来製品、創薬、処方箋医薬品^{注2)}

薬価基準収載

100mg/4mL
400mg/16mL

点滴静注用

※効能・効果、用法・用量、警告、禁忌を含む使用上の注意、効能・効果に関連する使用上の注意、用法・用量に関連する使用上の注意等は製品添付文書をご参照ください。

ベバシズマブ(遺伝子組換え) 注
注1) VEGF: Vascular Endothelial Growth Factor(血管内皮増殖因子)
注2) 注意—医師等の処方箋により使用すること

AVASTIN bevacizumab

製造販売元 中外製薬株式会社 〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1
ホームページで中外製薬の企業・製品情報をご覧ください。 <https://www.chugai-pharm.co.jp/>

2017年10月作成

TOPICS 今月の一枚 陽だまり

患者情報コーナー

2021年3月より患者情報コーナー「陽だまり」が移転しました。ご自身の治療や療養の決定にご活用いただけること、ご自身のお体の状況の理解が深まること、療養が安心して送れることを目的として情報を整備し、配架しています。

この場所は、当院の患者さんのみならず、ご家族や、地域住民の方にもご利用いただけますので、春の日差しを感じられる「陽だまり」を、ぜひご利用ください。



感染拡大防止

オンライン面会のご利用の案内

面会時間: 1回の面会30分
利用時間: 平日13:00-16:00の間

※皆様におかれましては、今回の新型コロナウイルス感染症の拡大防止を目的といたしております。当センターのサービスは安全に提供するため、面会を制限しております。そのためオンラインによる面会のサービスを提供させていただきます。

※ご予約の上でご来院いただきますようお願いいたします。...
ご利用を希望される方はお声かけください。

【患者支援センター】で予約のお手伝いをしています

【新型コロナウイルス感染症への対応の取組とお願い】 - 独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター (hosp.02.jp)

独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター
TEL:0721-53-5761(代)

オンライン

診療/薬剤面談/面会

始めました!

患者支援センターにお問い合わせください
独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター
TEL:0721-53-5761(代)

独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター
TEL:0721-53-5761(代)

広報誌「南窓」のご意見・ご感想をお聞かせください <https://contact.osakaminamihosp.jp/>

広報誌「南窓」をお読みいただき、誠にありがとうございます。
お客様一人ひとりの声をより良い広報誌作りに活かしてゆきたいと考え、ご意見・ご感想を募集しております。皆様からのご意見は、今後の改善を進める上で参考にさせていただきます。右記のURL または QRコードよりフォームにアクセスが可能です。ご意見・ご感想への返信はいたしておりません。ご了承ください。ご意見全てにはお答え出来ない場合がございます。予めご了承ください。



診療科 NOW 小児科



お子さんはもちろん、親御さんにも寄り添い
子育ての楽しさを取り戻していただくために

小児科 医師 井上 徳浩 小児科 医師 西 一美



「小児科の動画はこちら」

小児アレルギー専門の看護師も在籍

「小児科」では、急性期疾患の診療のほか、腎臓病や低身長などの慢性疾患、心身症などにも力を入れ、アレルギー外来や心臓外来も開設しており、入院施設が整っているのも大きな特徴です。小児科医長の井上徳浩先生は、小児アレルギーの専門家としても大変

よく知られる存在。乳幼児からのアトピー性皮膚炎や食物アレルギーの患者さんが南河内エリアはもちろん、他府県医師会や患者会の支援により関東から九州に至るまで遠方からも多くの患者さんが受診しています。また小児アレルギーエデュケーターの資格

(日本小児臨床アレルギー学会)を持つ看護師も在籍しており、疾患の詳しい説明や、ステロイド軟膏の塗り方、吸入のしかた、食物アレルギーで症状を起こしたときの対応のしかたなど日々に必要な事柄をきめ細やかに指導してくれます。



負荷検査や教育入院でも高い実績

井上先生:食物アレルギー負荷試験は年間数百例の実績があります。アレルゲンと思われる食べ物を食べてみてアレルギー反応が出るかどうかを調べる検査です。当院ではどのような量を、どのような形態なら症状が出ずに食べられるのかを知ることには重きを置いています。ごく少量でも症状が出ずに食べられることは子どもさんにも親御さんにとっても喜びとなり、その道筋をつけるのが負荷試験です。基本的には日帰り入院で行っています。

またアトピー性皮膚炎では、自然経過ではなく、治療をしっかり行い、経過をきちんと見ていくことが重要です。当院で生まれたお子さんだけでなく他院で生まれたお子さんにも早期から治療を提供することが大事なことだと考えています。ステロイド軟膏を使うことは、一部で心配の声もあるようですが、2005年頃からステロイド軟膏に対する考え方は変わり、副作用の出ないような塗り方が分かってきていますので、



過度な心配は必要ありません。上手に安心・安全に使うということが今の治療のスタンダードです。ステロイド軟膏を塗ることで生じる疑問や不安を医師や看護師とともに解決し、治療習慣を身に付けることを目的としたスキンケア教育入院も行っています。

相談窓口などで親の悩みに寄り添う

西先生:小児科は子どもを診る科ですが、子どもたちのみならず親御さんをしっかり診ていきたいと思っています。特に現在のコロナ禍では、悩みを相談する場や、交流する場が少なくなり、孤立した育児をしている方が多く、育児へのしんどさが見受け

られる親御さんが増えました。当院ではそのような方には声をかけさせていただき、必要に応じて臨床心理士による子育て相談や発達相談、栄養士による栄養指導、地域や学校との連携なども勧めさせていただいています。親子がお互いに楽しく過ごすことができるよう支援させていただきたいと思っています。

井上先生:子育ての時期はあっという間に過ぎます。その貴重な時間を子どもさんが疾患を抱えていても、希望や明るさがあれば、親御さんは本来の子育ての楽しさを取り戻すことができると思うのです。そのために、私たちは常に親子に寄り添い、味方であり続けたいと思っています。このように当科では子どもさんに関することを幅広く対応していきたいと思っておりますので、お気軽にご相談、ご紹介ください。



スペシャリストが揃う充実の体制。

患者さんの負担軽減にも努める

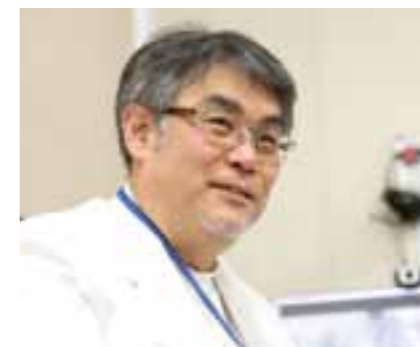
放射線科・IVRセンター部長 **堺 幸正**
さかい ゆきまさ
 診療放射線技師長 **松本 佳久**
まつもと よしひさ



「放射線科の動画はこちら」

精密な認知症検査でも地域に貢献

「放射線科・IVRセンター」には、IVR専門医・放射線診断医・放射線治療医・診療放射線技師、全29名が在籍しています。センターとしての三本柱は「放射線診断・IVR」「核医学検査」「放射線治療」で、それぞれの部門をスペシャリストの主任がまとめています。この主任をはじめ専門性の高い認定資格者も多く、たとえばマンモグラフィーなら検診マンモグラフィー撮影診療放射線技師が担当し、その



ほとんどが女性スタッフというのも特徴。診療放射線技師は、医師から具体的に指示された部位・内容に対して低侵襲など身体的負担が少ないよう創意工夫をしますが、私たちは患者さんの精神的負担の軽減にもできる限り努めたいと考えています。昨年には、低線量で被ばく量を軽減できるデュアルエネルギーCTも導入しました。

診断面では、MRIでVSRAD(認知症)の検査、これに加えてRI(核医学検査)で認知症の検査はほぼ完了できることも、この機会に改めて周知させていただきたいと思ひます。

IVR など最先端治療も積極的に

治療において特に力を入れているのは、センター名ともなっているIVR(画像下治療)とIMRT(強度変調放射線治療)。「IVR」はX線透視やCT画像、超音波などで体の中を見ながら、カテーテルなど細い管で治療を行う方法です。当センターにはIVR専門医も3名在籍しています。「IMRT」は専用のコンピュータを使用して腫瘍の形状に合わせた線量分布を作成、腫瘍に線量を集中し周辺には線量を低くできるので副作用を抑えることができます。放射線治療医が担当します。

また、下肢静脈瘤に対する「血管内レーザー焼灼術」など日帰り受けていただける最先端の手術も施行。

このような特徴的な診断・治療はもちろん、私たちは地域の拠点病院として、24時間・365日体制で緊急撮影、緊急検査にも対応。当日検査や当日所見、いわゆる読影レポートを検査終了日に作成して患者さんや依頼医にお渡しすることも可能です。

